2021 年度 3 学期終業式

2021 年度を締めくくるにあたり、この 1 年を少し振り返ってみましょう。光塩女子学院においても実に様々なことがありました。

4 月には新型コロナウイルス感染症感染拡大の波の谷間に、制約はある中ではありましたが、光塩祭を実施することができました。その後、第 4 波襲来、ゴールデンウィーク明けにはオンライン授業・分散登校を余儀なくされました。不安な中でも、6 月 7 月はクラブ活動も実施でき、公式戦にも出場が叶いました。夏休みにはデルタ株による第 5 波襲来。夏休み末のクラブ活動及び所沢市民体育館での体育祭を断念。授業もオンライン併用に。そんな中でも、体育部の皆さんと先生方は知恵を絞って、学校での 2 日間にわたる体育祭開催が叶いました。体育祭後に下校する皆さんは、勝利の喜びに満ちて興奮気味に帰る方、悔しさに涙で顔を腫らして帰る方、惜敗の悔しさを語りつつ次は絶対に勝つという決心のもと帰る方、久し振りに皆さんの喜怒哀楽の表情を見ることができて、大きな成長の一日だったのだと実感して嬉しかったのを思い出します。

10 月の修学旅行も中止。それでも同日程でオンラインを駆使して現地の方とも交流しつつ代替プログラムによる特別な学びの 3 日間を過ごすことができました。

11 月の親睦会は、規模を縮小した形ではありましたが、いわゆるバザーを 2 年ぶりに実施できました。各クラスの企画、有志による企画、いつも通りにはできないが故に、バラエティーに富む形で開催され、もう一人の友のために、奉仕できた一日となりました。

12 月のクリスマス会では、短い練習期間で高等科生は学年合唱ができ、中等科生はクリスマスを感じられる演出と歌の披露、聖書研究グループによるサンタクロースについての発表、中 3 有志による「エンパシーとシンパシー」についての発表もあり、例年とは異なる形でのクリスマスを味わい祈る時間を過ごせました。

1 月にはオミクロン株による第 6 波襲来。再び 1 月末からオンライン授業。 2 月に入っても分散登校。3 学期後半ようやく対面での一斉授業が実施できたのは 2 週間のみ。クラブ活動までできたのは 1 週間のみでした。これらの苦渋の決断をしてきたのは、佐野摩美校長先生でした。その佐野摩美校長先生も 2 月 21 日に天に召されました。佐野摩美校長先生は何とか今年度いっぱいこの節目である 3 月 23 日を皆さんと迎えたいと痛みに耐えながら生き永らえようと頑張ってきました。しかし、それは叶いませんでした。ただ、今は、病の苦しみ・痛みから解放されて天国から皆さんを見守ってくださっていると信じています。

今年度も新型コロナウイルス感染症の脅威に翻弄されつつも工夫を凝らして、できることをそれぞれが行ってきた一年だったと思います。ウイルスの危険を感じつつも、工夫を凝らして様々なことに挑戦できるのは平和が保たれているからです。しかし、今、その平和が脅かされています。2 月 24 日に始まったロシアによるウクライナへの軍事侵攻です。この戦争は長引けば長引くほど対岸の火事では済まされない状況です。ロシアの圧倒的な軍事力の前にウクライナの人々は、家を失い、家族を失い、国外に避難、あるいは国内のシェルターで不安な日々を過ごしています。ロシアの方も経済制裁により不自由な生活を強いられ、戦闘地域では犠牲者も出ています。今、私たちに求められていることは、ブレイディみかこさんがその著書「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー」で述べているよう

に「誰かの靴を履いてみること」です。ロシアの方々、ウクライナの方々への「エンパシー」です。もしも自分が戦禍にあったらどうして欲しいか　考えて行動することでしょう。ウクライナとロシアの方々の「もう一人の友」になることです。

　そこで皆さんに春休みの宿題です。ウクライナとロシアの平和のためにできることを一つ行動に移してみましょう。募金に協力する。ウクライナとロシアの国歌を聴いてみる。その歴史的背景を調べてどうしたら平和への歩みができるのか考察してみる。ウクライナとロシアの平和を祈るなど、小さなことで構いません。本校の中等科 1 年生から高等科 2 年生の皆さんと教職員で協力すれば約 800 名が平和のために尽力したことになります。一人ひとりできることは少ないかもしれませんが、皆さんで協力すればやがて大きな実を結ぶと信じて、実行してみてください。